



## 常に新しい取組みと改善に挑戦 日本の音楽業界を技術で支える

世界の音楽市場ではストリーミングが主流になりつつある中、なぜか日本だけ突出してCDが支持されていることをご存知でしょうか。実はこの意外な消費行動の原点を作り、日本の音楽業界を印刷によって支えてきたのが今回ご紹介する組織です。



創業52年の歴史を持つジャパン・スリーブは、日本で一番最初にアメリカのAGI社と『DIGIPAK（デジパック）』のライセンス契約を結び、音楽や映像ソフトなどの特殊パッケージを生産して市場に広めてきました。CDジャケット印刷で付加価値をつけることによって「音だけでなくパッケージの魅力ごと買う喜び」という価値観を作り、日本人の習慣として根付かせることに成功したジャパン・スリーブのISOマネジメントシステムの活用についてお伝えしたいと思います。

### 時代の変化を讀んで一早く 付加価値をつけて挑戦していく

— 御社が52年という長きにわたり、

順調に成長を続けて来られた理由は何なのでしょう。

当社は1968年に設立し、静岡県大井川町のCBSソニー工場のすぐ隣でレコードジャケットの製造を始めました。その後CDが発売されると私どもはいち早く1987年にアメリカAGI社とCDパッケージの『DIGIPAK（デジパック）』ライセンス契約を結び、デジパックを日本のCD業界に広め市場で高く評価されてきました。デジパックは音楽を目で見て楽しむ、触って楽しむといった総合的に楽しんで頂ける製品ですので、それがCDの販売に非常に有効だったと思います。

またCDだけでなく、ゲームのPlayStation発売など記録メディア



代表取締役 社長

かない あきら  
金井 彬氏

のデジタル化への流れを読み、それに伴う製品群の変化に対応するため1996年には3,000坪の用地を大井川港の近くに取得し、J1ファクトリーを竣工して、印刷から加工・納品までの一貫生産体制を構築しました。その後DVD、ブルーレイディスクと様々なメディアが生まれ、時代と共にノウハウを蓄積しながら成長してきました。



— 世界では今、ストリーミング販売が主流になりつつありますが、日本ではどうですか？

音楽業界全体としては年ごとにCDは少しずつシュリンクしてストリーミング\*の方へ移行している、これは間違いありません。ただ幸いなことに私どもが古くから広めてきたデジパックの魅力もありまして、CDのマーケットシェアとしては今、日本が世界で一番大きいんですね。デジパックの持つ、手で触れた時のプラスチック製品とは違うあたたかさ、デザインの多様性などがこれまでもずっと評価されてきています。CDを買ってくださるお客様は音だけを買うのではなくて、パッケージの面白さや魅力も一緒に買っていてくださっていると感じています。そのお陰もありまして、他の国に比べるとストリーミングの比率が比較的抑えられています。

技術に関しましては私どもが日本で一番先に始めましたので、やはり先行者の優位性、これは大きいですね。色々なノウハウを私たちは掴んでいますので、お客様の新しい要求にもお応えすることができます。最近ではブックレットとして挟み込む写真集などがどんどん厚くなる傾向もあります。これからもお客様の様々なご要望に技術で応えながら、音楽の新しい付加価値を提供していきたいと思っております。

※ストリーミング…Web上にある音楽や映像データを、手元のデバイスがインターネットに繋がった状態で再生する方式

## 小集団活動で培った力が ISO運用で有効に働く

— 2000年からISO14001を運用していらっしゃいますが、  
認証取得のきっかけは何だったのでしょうか。

創業当初、日本ではZD運動\*が非常に盛んになっていました。不良品撲滅にはこれが一番ふさわしいだろうということで、私どももZD運動を取り入れて10年以上続けたんですけれども、やはりゼロまで

いくのが大変なんです。

期間と目標を設定してそれに向かって活動するのですが、目標がなかなか達成できないとモチベーションが少しずつ落ちてしまうんです。かといって甘い目標では何にもなりませんし、挑戦性のある高い目標を設定するわけなんですけれども、それが達成できないことが続きますと、どうしてもモチベーションが落ちる。

ZD運動の壁といいいますか、そういうところに行き当たりまして。それならここで小集団活動に切り替えようじゃないかと。グループごとに期間と目標を設定し仕事の改善活動を行うという形に変えて、年2回の全体会議で各グループの成果発表をし、次の期の目標を発表するというのをずっと続けて参りました。

そのような中で1998年にISO9002を認証取得し、それが回り出したところで2000年にISO14001を認証取得しました。品質も環境も私どもがずっと取り組んできた小集団活動が基本となり、製造の部単位、課単位、またその中でのコミュニケーションを円滑に回すことができました。そのような経緯もあって、ISO14001認証取得時には比較的、経営陣の目指すところに近い形でスムーズにいったのではないかと思います。

※ ZD運動…1960年代にアメリカで生まれ、日本にも取り入れられた無欠点(Zero Defects)で仕事をしようという運動。

## ニュース発信や社員教育で 一人一人の意識を高める

— 環境への取り組みにおいて、

### ISO14001は有効に活用されていますか？

やはり一番は得意先へのアピールという点が大きな要素として上がってくるんじゃないかと思います。それからブランディングもありますね。企業活動を続ける中で環境活動の社会へのアピールは大事だと思っています。環境に関しては社会の要求だということが、誰にも分かりやすく理解できるんですね。仕事を通じて、あるいは個人の生活でも非常に認識が進んでいると感じています。

社内でも毎月JSエコニュースという社内報を発行しております。これは東京本社と静岡の島田プロダクションセンターにある発行委員会が交互に出しているものなのですが、環境に対する啓発を継続的に訴え、社員一人一人の意識を高めていく上で有効な手段だと考えております。



### 『JSエコニュース』

社内向けに毎月発行している『JSエコニュース』。環境に纏わるイベントや外部環境の話題など、身近なニュースにふれながら様々な情報を発信している。

— 御社は社員教育にも力を入れているそうですね。

はい。対象は新入社員が主体になるのですが、社内に学校を設置しています。内部で講師を設定して生徒に教えるため、講師の方もそれで成長できるわけですね。半年のコースで、最後に試験をして修了証も渡すという形で行っております。また工場では昼休みを利用して自主勉強会もやっております、最近ではパソコン教室でワードやエクセルの使い方を学んでいます。

## 改善のアイデアや技術は社内から。

### 活人化で組織の強みを持つ

— 社内で提案制度も実施されているそうですが、

それはどのようなものなのですか？

提案制度は全社で運用しているのですが、年間200件ほどの提案が出てきます。内容としては作業効率や生産性を上げる改善が多いですね。例えば事務方では伝票類が多くなるところを少しでもペーパーレスにするような改善の提案ですとか、生産現場では物の移動を少なくしたり、作業中の歩数を少なくしたりといった小さな積み重ねからできるような改善をよく考えてくれます。優秀な提案には賞金の授与と共に、事業活動に組み入れて改善を図っています。



取締役  
生産本部 本部長  
やまもと ひろかず  
山本 洋和氏

— 品質や生産性を上げるために、自社で製造設備の開発もしているそうですね。

はい。「生産技術」という部署で製造現場の問題を解決しています。メーカーさんだけに頼っていると、故障や簡単な電気システムのトラブルがあるとその間どうしても機械が止まってしまうんですね。それは大きな損失になりますので、自社の生産技術部で修理をしてしまうこともあります。また生産技術では加工機用検査カメラや検査システム、独自開発による搬送装置やカラクリ装置を作成するなど、活人化も図っています。内製することで修繕費も削減できますし、様々な改善を通じて生産性を向上できることは、当社の大きな強みだと考えています。

## FSC 認証を取得して

### 時代のニーズに応える

— インキや紙といった材料調達では、どのようなことに留意されていますか？

金井 インキに関しては環境になるべく影響を与えないよう、揮発性の有機化合物を含まない non VOC インキを採用しております。また紙に関しては「適正な森林管理」で認証された製品を扱う『FSC

森林認証\*』を取得しており、グリーン購入を希望されるお客様からのご要望にもお応えしています。

当社で取扱う音楽や映像向けのディスクパッケージでは、環境意識の高いアーティストの方からFSC認証紙を使って欲しいというご依頼を頂くことがよくありますので、取得した『FSC CoC 認証\*』により、森林から製紙～印刷～お客様に届くまで履歴がとれる生産管理で対応しています。

※ FSC 森林認証…「適正な森林管理」を認証する制度。認証された森林の林産物でできた木材製品にはFSCのロゴマークが付くので、消費者にも分かりやすく伝えることができる。

※ FSC CoC 認証…森林から製紙～印刷～ユーザーという流れを認証というチェーンで結び、環境に配慮した印刷物を生産する制度（このチェーンに入らないと受発注ができない）

## ISMSがお客様との信頼向上に寄与 組織のマネジメントで情報を守る

— 御社は2006年からISO27001を運用していらっしゃいますが、有効に活用されていますか？

ジャパン・スリーブが製造する音楽や映像のパッケージ製造では発売前の情報を取扱うため、製品が発売されるまで絶対に外部には洩らしてはいけないという使命があります。監視カメラを設置して録画したり、警備システムで部外者の立ち入りを24時間警戒したりすることはもちろん、全社員と誓約書を交わし、随時セキュリティに関する教育を実施しています。これについては社員も皆理解できており、セキュリティというのは本当に守らなければいけないことなのだとして受け入れ日頃の活動をやってくれていると実感しています。それがまたお客様から見ても、私どもに対する安心感につながっていると思いますので、受注産業としてはここが一番大事なところではないかと思っています。

— 急速なITの進化に伴い、どのような課題をお持ちですか？

現在のところ当社では情報セキュリティ事故の発生もなく、ISMSが有効に機能していると認識しております。ただし近年ではサイバーセキュリティの脅威なども注目されており、情報産業の一翼を担う当社にとっても他人事ではありません。情報資産の安全対策は経営的重要課題であると捉えて「機密性」「完全性」「可用性」を確実に維持していきたいと思っております。また引き続きISMSを運用しながら社員の意識向上に努め、協力会社の作業プロセスにおける情報保護などにもしっかりと取り組んでいきたいと思っております。



左から久保野EMS責任者、金井社長、山本本部長

## 社員を守るために工場を移転

### 地域に愛される工場を目指す

— 2015年に焼津市から現在の島田市へ工場を移転していらっしゃいますが、

きっかけは何だったのでしょうか。

2011年の東日本大震災当時、当社の工場は焼津市の非常に海に近いところにありました。3・11のあの映像を見ましてね、私もう、本当にびっくりしたんです。津波の恐ろしさってこんなに甚大なものなのかと。そして自分の会社を振り返った時に、こんなに海に近くていいのだろうか。そう思ったら、もう即断で工場を移転してしまおうと決めました。ところがなかなか適地が見つからず、やっとこの場所を見つけるまで1年かかりました。初めて足を運んだ時、北に神社があって緑も多く、南向きで非常に環境も静かですし、本当に素晴らしいところだと思いました。9,700坪の広い用地に里山がまわりをずっと囲んでいて、ここなら津波の心配がまったくない、こんな場所は他にないだろうと思い即決しました。

— 地域住民の方にも歓迎されたのでしょうか。

工場建設に当たっては地元の方の了承を得ずに建てることはできませんから、地元で説明会を何度も行いました。皆さん非常にあたたかく話を聞いてくださいましたが、道が狭いものですから大きなトラックが通ることを心配される声もありました。また通勤時間が地元の子供達の通学時間と重なることもあり、子供たちを少しでも守りたいという思いから、通学路の側道にグリーンベルトを設置しました。

また何かの催し物ができるよう、工場敷地の一部を地域の皆様に開放しているのですが様々な季節の行事などに非常に有効に使って頂いており、大変嬉しく感じております。

— 先ほど工場の前で近所の小学生から挨拶をされていましたね。

**山本** はい。ここ数年、地元の小学生を対象に学校の夏休みに合わせて工場見学を実施しているので、その時に来てくれたお子さんじゃないかな。工場見学では保護者の方にも付き添って頂いて、普段は見られないものづくりの現場を見て製品に触れて頂き、工場を理解して頂くと同時に、夏休みの研究材料と思い出づくりのお役に立てればと考えております。

— 御社は社会貢献にも熱心に取組まれているとか。

**金井** 2017年に島田市大草地区と「一社一村しずおか運動」の協定を結び、工場周辺の草刈り作業やゴミ拾いなど地域の活性化に取り組んでおります。

また2018年には地域の皆様と一緒に工場横の川沿いに桜を50本植樹しました。数年後の桜の季節には、素晴らしい景観になっていると思います。

国際貢献ではタイの山岳地帯の子供たちへの教育支援活動を行っている静岡の地元ボランティア団体SHIDAへの協賛活動も行い、タイからの工場見学も受け入れています。

## 活性化や改善の機会に結びつく マネジメントレビューで発展していく

### — 組織のブランディングや改善に関して、何か課題はありますか？

私自身の課題になるのですが、マネジメントレビューをもっと改善の機会として生かしたいと思っております。これは自分に対する戒めといいますか。型どおりの内部監査、型どおりのマネジメントレビューではいけないと。これからSDGsを具体的にどの様に会社にとりいれるべきかなども考えています。もっと何か活性化や改善に結びつくようなマネジメントレビューにしていきたいと思っております。

## 組織情報

### 会社概要

社名	株式会社ジャパン・スリーブ JAPAN SLEEVE CORPORATION
設立	1968年3月
資本金	2億500万円
所在地	本社：東京都墨田区両国3丁目21番11号 島田プロダクションセンター：静岡県島田市大草492-1
従業員	284名(2019.11現在)

### 事業内容

#### 【本社】

- SP営業本部
- MP営業本部
- DPP制作本部
- 東京生産管理部
- 総務部

本社DPP制作本部にはデジタル印刷機を備え、広色域の印刷やバリアブル印刷にも対応します。

#### 【島田プロダクションセンター】

- 生産本部

ジャパン・スリーブの生産拠点は、2015年4月に完成した島田プロダクションセンター。

印刷設備は5台(全42ユニット)ですべてUV仕様。

ISO14001も取得し、環境対応も万全です。

加工部門も当社独自の設備を備えて、

高品質な貼り箱や特殊パッケージへも対応します。

また、製品のアSEMBリーや預かりにお応えするため、

700パレット分の製品保管が可能な立体倉庫も確保しています。



## — 環境方針 —

### 理念

地球は、あらゆる生態系の子孫のために  
我々が預かっているかけがえのない星である。  
我々は、地球環境が永久に健全であり続けるよう、  
自らの責任をもって日々の活動を行う。

### ■株式会社ジャパン・スリーブの環境に対する考え方

社長は、経営理念の「社会的責任を全うする」に込められるように、ISO14001:2015に基づき印刷及び各種パッケージの生産・販売事業に関するマネジメントシステムを確立し、顧客満足の一層の向上を目指し、環境側面を管理し、汚染の予防を図り、マネジメントシステムを継続的に見直し、改善していくことを確実にする。

また法令・規制要求事項を満たすことは当然のこととして、社会の要求事項を満たすことの重要性を含む「マネジメントシステムで目指す目的」を表明する。

本部長は、環境方針に整合したマネジメントシステムで、目指す目的及び社会的ニーズに応える具体的な年度マネジメント目標及び実施計画を策定し、全社で目標達成を実現する。

この方針は文書化、実行、維持され、かつ当社の全ての要員に周知徹底される。また全ての利害関係者の人々にも公表する。

## — 情報セキュリティ方針 —

### ■基本方針

情報産業の一翼を担う当社にとって、顧客から預かり取り扱う情報はすべて機密保持を要求されるものです。近年、情報産業を脅威にさらす各種の要因や事件が目立っており、当社としても他人事でなく適切な対応が不可欠と考えます。もし当社においてこの種の事件を引き起こせば、顧客に与える損害は計り知れず取り返しのつかない事態となりえます。このため、情報資産の適切な安全対策を実施することは社会的責務であり、経営的重要課題でもあります。このような認識のもと、当社の情報資産に必要な情報セキュリティを確保するため「機密性」「完全性」「可用性」を確実に維持し、様々な脅威から情報を保護し、顧客に安心と安全を提供する体制を確立し実行するため情報セキュリティマネジメントシステム（Information Security Management System 以下ISMSという）を構築し推進しております。

### ■行動指針

1. 基本方針は社長が承認し、全従業員に公表、周知徹底する。
2. 当社が保護する情報資産を対象とし、その「機密性」「完全性」及び「可用性」の確保のためリスクアセスメントを通じて適切な情報セキュリティ対策を実施する。
3. 情報資産を保護するに当たり、情報セキュリティに関連する法令、規制をはじめ顧客の要求を厳守するにとどまらず、従業員等の業務に関する守秘義務についても就業規則を厳守するなど情報資産保護向上に努める。
4. 情報セキュリティマネジメントを組織的に管理運用するため、情報セキュリティに関する役割と管理責任者を定め、システムについての継続的な見直し、改善を実施する管理体制を確立する。

株式会社 ジャパン・スリーブ  
代表取締役社長 金井 彬